

2022年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組み

■総評は、報告書の総評における意見、課題を抜き出して中項目に分けた。
■2022年度報告書における意見・課題は新規課題か継続課題かを振り分け、担当している部門を明記した。新規の担当は、継続課題との関連と意見・課題の内容と部署の関連性から記載した。
■新規課題にはアンダーラインを引いて掲載した。

※1:2021年度の意見・課題への取り組み(年度末点検)をもとに、2022年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組みの進め方を記述。
また、第2回学校関係者評価委員会に報告予定。
※2:中間点検は第2回学校関係者評価委員会に報告予定。
※3:年度末点検は次年度第1回学校関係者評価委員会に報告。

大項目	中項目	2022年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取り組み・改善の進め方 ※1	中間点検 ※2	年度末点検 ※3
重点目標	2. 重点目標と達成するための計画・方法 (1)TPCの育成と強化	○授業や学校生活を通して、より一層学生の対話力が身につくような取り組みをしてほしい。(2022年度総評) ○TPCは、業界が変化しても普遍的に必要な項目である。学生に備わっているかどうかを定期的に評価する仕組みを設け、PDCAを回しながら身につけるようにしてほしい。(2022年度総評)	新規	校長	■専門知識・技術以外の学生の対話力には、人との関わり合いの場が必要であり、アフターコロナにおける諸活動の再開により再びこれらの育成に取り組んでいく。 ■TPCは、学生たちが今後職業人として人生を歩んでいくまでにコアスキルであるため、今のところは担任が各種面談、就職活動に係る面接等を通じて把握している。今後、各種検査等を導入するかを含め学内で議論していく。	■学生の対話力の向上のために、グループワーク、アクティブラーニング等を再開した。また学内行事も再開したことにより、自主的な学生のサークル立ち上げ等が見られた。 ■TPCを醸成しチェックをする科目がない現在、各担任による面談と就職活動を通してCSCとの接点の中で、能力向上の度合いを確認するにとどまっている。	■学生の対話力向上のため、グループワーク、アクティブラーニング、学内行事も再開した。自主的な学生のサークル立ち上げを促進するように努めた。 ■各種検査ツールについてはコストや信用性の観点から導入していない。
	(2)学び直しの教育プログラムの開発	○新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、卒業生、社会人、外国人を対象とする新規の教育事業が展開できなかった。今後の実施に期待したい	継続	校長	■9年ぶりに離職者訓練等の社会人対象教育プログラムの開発をめざした。1月より医療事務・調剤事務コースをスタートさせることができた。今後はこのプログラムを含め、ラインアップの拡充を目指している。	■ラインアップの拡充をめざし「登録販売者」(4月)、「介護職員初任者研修」(7月)2コースの募集を行ったが、最低開講人数に達せず実施に至らなかった。今後は開講実績のある医療事務関連のコースを中心に検討を重ねていく。	■試行錯誤しながら1月より「医療事務・医師事務養成科」を立ち上げ開講した。募集方法、教員確保、採用実績の向上が課題であるため、パンフ作成研修、営業活動、嘱託教員の確保、人材派遣会社との連携を進めた。
1 教育理念・目的・育成人材像	(2)育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	○職業実践教育を更に充実させるためにも、引き続き関連業界との連携の強化に取り組んでほしい。	継続	医療秘書科	■学校関係者評価委員会、医療事務分野教育課程編成委員会、実習先医療機関や卒業生にご教示いただく情報とご意見を学科運営に反映させ、専門分野の人材育成を推進する。	■第1回学校関係者委員会、第1回医療事務分野教育課程編成委員会における委員からのご意見を、次年度カリキュラム及び学科運営に反映できるよう策定している。 ■医療機関および企業の人材育成に関わる実務者に兼任講師を依頼し、社会人化教育を推進している。 ■実習先病院を訪問し、卒業生の動向や求められる人材に関する情報、医療現場の現状の把握、共有への取り組みを図っている。	■学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会、および卒業生や兼任講師からの情報やご意見を、カリキュラムの策定や学生指導に反映させるよう連携に努めた。 ■2024年度教員配置に際し、医療機関および企業の実務者に依頼した。 ■実習先病院訪問で得た情報を関連部署間で共有し、引き続き職業観の醸成を図るよう、取り組みを進めていく。
			継続	医療事務科	■学校関係者評価委員会、デュアル実習先医療機関や卒業生にご教示いただく情報とご意見を学科運営に反映させ、専門分野の人材育成を推進する。	■第1回学校関係者委員会における委員からのご意見を、次年度カリキュラム及び学科運営に反映できるよう策定している。 ■医療機関および企業の人材育成に関わる実務者に兼任講師を依頼し、社会人化教育を推進している。 ■後期から始まるデュアル実習先病院を順次訪問し、業界の動向や求められる人材に関する情報、医療現場の現状の把握、共有への取り組みを推進していく。	■学校関係者評価委員会および卒業生や兼任講師からの情報やご意見を、学生指導に反映させるよう努めた。 ■デュアル実習先の医療機関訪問で得た情報を関連部署間で共有し、本校の1年制学科の在り方について検討を続ける。
			継続	医療事務IT科	■病院実習、特別講演、採用活動等あらゆる行事を通して、また兼任講師や専門分野で就業する卒業生等からの情報収集に努め、医療業界の動向を知り、医療機関等が求めるニーズを把握し、それに見合った人材の育成を目指す。	■特別講演等は対面、またはオンライン配信により実施した。また2年生の病院実習は予定通り7月から9月にかけて実施することができた。身近なロールモデルとなる卒業生に来院してもらい、話を聞く機会を準備している。	■学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会、および卒業生の医療従事者による講演、報告会などを通して、また兼任教員の先生方からも情報を収集し、医療業界との連携を図った。 ■実習先病院への訪問もできる限り行い、また電話やメールを通して情報を得ることができた。
			継続	診療情報管理科	■病院実習、特別講演、採用活動等あらゆる行事を通して、また兼任講師や専門分野で就業する卒業生等からの情報収集に努め、医療業界の動向を知り、医療機関等が求めるニーズを把握し、それに見合った人材の育成を目指す。	■特別講演等は対面、またはオンライン配信により実施した。また2年生、3年生の病院実習は予定通り7月から9月にかけて実施することができた。身近なロールモデルとなる卒業生に来院してもらい、話を聞く機会を準備している。	■学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会、および卒業生の医療従事者による講演、報告会などを通して、また兼任教員の先生方からも情報を収集し、医療業界との連携を図った。 ■実習先病院への訪問もできる限り行い、また電話やメールを通して情報を得ることができた。
			継続	くすり・調剤事務科	■学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会、薬店実習、校内企業説明会などの行事や兼任講師、専門分野で就業している卒業生などと情報を共有し、専門分野において求められる人材を育成する。	■業界関係者と継続的に、業界動向、求人状況、カリキュラム、実習などについて打ち合わせをおこなっている。 ■薬店実習を実施し、より実践的な知識を身につけることができた。	■2月に第2回くすり・調剤事務分野域域課程編成委員会を実施した。前回の委員会でごいただいたご意見に対する対応の報告、ならびに第1回以降の状況説明、次年度カリキュラム内容などについて意見を伺った。それらの意見をもとにカリキュラムの検討をしていく。
			継続	介護福祉科	■臨地実習を通した職業実践教育に加え、第一線で活躍されている経験豊富な方々や卒業生等を兼任教員(講師)としてお迎えし、授業内容の刷新を図る。 ■介護現場の実情に合ったカリキュラム構成とするために、兼任教員や実習指導者のみなさまに協力を仰ぎ、カリキュラム修正の内容に関するアンケート調査を実施し、結果をカリキュラム修正に反映する。 ■区社協や地域包括支援センター等との連携を働きかけ、地域社会に入っている力を養成する。	■地域交流や処遇改善、ICTやAI等の導入等に取り組んでいる事業者等を新たな実習先に加え、実習先の多様化に努めている。より専門性の高い活動をしている方を講師としてお迎えした。次年度に向けて、更に交渉を行っている。 ■前期分のカリキュラム内容の見直しを後期分と併せて行う予定である。 ■地域活動参加への足がかりとして、豊島区高田地区の会福祉法人の担当者と面会した。10月中旬から地域活動の参加を予定している。	■地域に根ざした活動を継続している事業者を、新たな実習先に加えることができた。次年度は、地域密着型サービス事業者を追加したい。介護実習の省力化、ペーパーレスを実現するために、「介護実習支援システム」を導入した。これにより、特に外国人留学生と実習指導者にとって大きな負担となっている、実習記録等の作成と指導評価が簡便になることでより共有が深まり、連携強化が実現できる。次年度から本格運用が始まる。 ■カリキュラムの見直しを行った。介護現場におけるニーズ調査を行い、その結果を反映し、科目を一つ新設した(看取りケア)。また災害時のケアについても、次年度は実践経験のある講師を招いて授業を行う。多様な学生が履修しやすくなるように、また、全体として実習を中心に学びが展開できるように配慮した。 ■豊島区高田エリアの地域活動への関わりが始まった。
			継続	看護科	■第1回の教育課程編成委員会において、本年度の取り組みを示し、第2回では運営の結果と次年度の取り組みについて示している。また、年2回実習協議会においては実習施設からの新人の傾向について情報共有しながら基礎教育にも活かすようにしている。更に、実習指導者会では臨床における学生の傾向を聴き、東京都専門学校連絡協議会で他校の取り組みなども参考にしながら教育の在り方を検討し進めていく。	■1回目の教育課程編成委員会では新科目について進捗状況を報告し賛同を得て運営にあたっている。 実習協議会では昨今の入院短期化の傾向を踏まえ、臨地実習における学習効果を高める実習方法のあり方について方向性を示し、現場の看護師の実習指導の検討課題として取り組んでいる。 また、東京都看護専門学校協議会において「看護師の判断能力を高める研修会」に参加し本校の学習指導に活用できるような取り組みを行っている。	■教育課程編成委員会における意見も参考に運営ができた。学生の反応に対し、より取り組みやすい方法を伺い、次年度組んでいく。 研修会の参加を受けて次年度の授業構築に取り組んでいる。また、本校の取り組みについて他校に発信し、他校と教育について共有することが出来る取り組みが出来ている。
			継続	校長	■政府でも、社会人向けの「リスキリング」が急務とされている。経営企画室で開発しているプログラムのさらなる拡充をめざす。 ■外国人支援については、現在多くの日本語教育機関や支援団体の連携をとり、社会のニーズを汲み取っていく。	■国が推進するリスキリングの範疇はITスキルが中心となっており、今後この分野に参入できるか検討を進めていく。 ■外国人留学生の受け入れを促進するため、都内を中心とした日本語学校と介護事業所との連携を進めている。	■ニーズの高い分野であるITスキルは教員の確保が大変困難であり、実現できていない。 ■介護分野での外国人留学生の受け入れ促進のために、リスキリングでなく本科で留学生対象の学科が現実的である。
2 学校運営	1. 運営方針	○運営方針の周知の仕組みはしっかりとしている。常勤の教職員に対する浸透度の確認は工夫して進めている。兼任講師に向けた働きかけの工夫が引き続き求められる。	継続	校長	■学科運営方針については、学科長と校長面談の上、確認を取っている。しかしながらその設定と公表の手順について改善していく。	■次年度の学科運営計画を年度内に作成するよう見直しを行った。	■これまで重複していた年度末自己点検、学科運営報告・計画について、教員の負担軽減を行った。兼任講師に向けて、年度当初において運営方針を説明した。
3 教育活動	2. 教育方法・評価等 (1)教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	○現場で求められる人材像の変化に対応するカリキュラムを創意工夫するように引き続き努めてほしい。 ○必要な知識と技術を身につける前提に、本人の勉強に対する動機づけや気持ちの持続性があると思われるため、その仕組みの検討も引き続き行ってほしい。 ○すぐに使うことのできる知識や技術も大切であるが、社会に出て継続して学んでいく力や、折れない心も身につける教育に引き続き取り組んでほしい。 ○ <u>在学中に社会人としてのコミュニケーションスキルが身につくような授業の仕組みづくり</u> に期待したい。(2022年度総評)	新規／継続	校長	■重要なのは現場からの声である。その声を、キャリアサポート、実習を通じていかに汲み取るかが重要である。この情報収集に力点を置く。	■各学科の教育課程編成委員会を通じて、現場の声、ニーズの汲み取りは進んでいる。しかし実習を通した訪問が、先方の都合により実現できていない分野もあり、キャリアサポートセンターからの収集に偏っている現状である。	■各学科の教育課程編成委員会を通じて、現場の声、ニーズの汲み取りはできている。 また、実習先との協議の場を設けている学科では、これら学科では情報収集体制が整備されている。 一方、実習訪問による面談の際に情報収集している学科は広範囲な意見収集ができていているといえるが、コロナ禍の影響もまだあり、訪問自体が以前に比べ旧日に復していない。
			新規／継続	医療秘書科	■学校関係者評価委員会及び医療事務分野教育課程編成委員会におけるご意見を基に、学生を医療現場で求められる人材に育成できるよう、カリキュラムの見直しを随時行う。 ■専門知識・技能の習得とともに、初年次教育におけるキャリア教育・社会人化教育を推進する。	■学校関係者評価委員会及び医療事務分野教育課程編成委員会におけるご意見を伺い、カリキュラムの検証と定着化を進めている。本校のTPC教育に基づく社会人化教育、マナー教育、コミュニケーション力の強化は引き続き学科の特徴として位置づけている。 ■医療機関従事者による講演を視聴する機会を設け、将来のキャリアアプラン・目標を設定し、その実現のために主体的に学ぶことができるよう指導している。	■2024年度カリキュラムは、学校関係者委員会(年3回実施)および教育課程編成委員会(年2回実施)で伺ったご意見をもとに、学生が現場で求められる社会人として成長できることを念頭に策定した。 ■授業や病院実習等々、2年間の学校生活を通し、学生自身が将来のキャリアアプランや目標を設定し、その実現のために主体的に学び続ける力を身につける指導を継続していく。
			新規／継続	医療事務科	■学校関係者評価委員会におけるご意見を基に、学生を医療現場で求められる人材に育成できるよう、カリキュラムの見直しを随時行う。 ■専門知識・技能の習得とともに、入学後早期よりキャリア教育・社会人化教育を推進する。	■学校関係者評価委員会におけるご意見を伺い、カリキュラムの検証と定着化を進めている。本校のTPC教育に基づく社会人化教育、マナー教育、コミュニケーション力の強化は引き続き学科の特徴として位置づけている。 ■医療機関従事者による講演を視聴する機会を設け、将来のキャリアアプラン・目標を設定し、その実現のために主体的に学ぶことができるよう指導している。	■デュアル実習先の医療機関訪問で得た情報を関連部署間で共有し、本校の1年制学科の在り方について検討を続ける。
			新規／継続	医療事務IT科	■学校関係者評価委員会および教育課程編成委員会でのご意見を基に、現場で求められる人材を輩出できるよう常時カリキュラムの見直しを行い、より良い教育内容の提供を目指す。 ■単なる知識や技術の習得ではなく、自分の将来像を描き、何のために必要なかを意識させ、目標をもって自主的に学ぶ姿勢を継続できる力を身につけるよう指導する。	■7月に実施された第1回学校関係者評価委員会、第1回医療事務分野教育課程編成委員会にてご意見を伺い、2024年度入学生カリキュラムの見直しを行った。 ■授業や学校生活において、各担当教員が自身の職業経験や医療業界の方からの情報を伝え、具体的な将来の目標を持ち、達成に向かって努力する指導を行っている。	■10月および3月に実施された学校関係者評価委員会では、主に教育内容全体についてのご意見を伺い、また、2月の第2回医療事務分野教育課程委員会においては、カリキュラムをはじめとする現在の教育内容が医療現場で求められるものと合致しているか検証するために、より具体的なご意見を伺った。今後は医療事務IT科、診療情報管理科のカリキュラム策定に活かしていく。 ■授業、講演、実習その他のあらゆる機会を通して、自分の将来の目標を意識させ、自主的に粘り強く学ぶ姿勢を継続できる力を身につける指導を行っている。
			新規／継続	診療情報管理科	■学校関係者評価委員会および教育課程編成委員会でのご意見を基に、現場で求められる人材を輩出できるよう常時カリキュラムの見直しを行い、より良い教育内容の提供を目指す。 ■単なる知識や技術の習得ではなく、自分の将来像を描き、何のために必要なかを意識させ、目標をもって自主的に学ぶ姿勢を継続できる力を身につけるよう指導する。	■7月に実施された第1回学校関係者評価委員会、第1回医療事務分野教育課程編成委員会にてご意見を伺い、2024年度入学生カリキュラムの見直しを行った。 ■授業や学校生活において、各担当教員が自身の職業経験や医療業界の方からの情報を伝え、具体的な将来の目標を持ち、達成に向かって努力する指導を行っている。	■10月および3月に実施された学校関係者評価委員会では、主に教育内容全体についてのご意見を伺い、また、2月の第2回医療事務分野教育課程委員会においては、カリキュラムをはじめとする現在の教育内容が医療現場で求められるものと合致しているか検証するために、より具体的なご意見を伺った。今後は医療事務IT科、診療情報管理科のカリキュラム策定に活かしていく。 ■授業、講演、実習その他のあらゆる機会を通して、自分の将来の目標を意識させ、自主的に粘り強く学ぶ姿勢を継続できる力を身につける指導を行っている。

新規／継続	新規／継続	くすり・調剤事務科	■学校関係者評価委員会および教育課程編成委員会における意見を基に、学生を現場で求められる人材に育成できるよう、カリキュラムの見直しを随時行う。 ■授業内容と共に現場での経験談を交えて授業がどのように役立つか学生に伝えることや、授業1コマごとの目的を明確に伝えることで学習意欲を高める。	■第1回学校関係者評価委員会、第1回くすり・調剤事務分野教育課程編成委員会、企業訪問などを通じてお伺いしたご意見をもとに、2024年度入学生カリキュラムの見直しを行った。 ■兼任講師とも協力し、将来像を思い描くことができるような授業を実施している。 ■キャリアデザインやサービス接遇などの授業において、社会人として求められるマナーやコミュニケーションについて学習している。	■2月に第2回くすり・調剤事務分野境域課程編成委員会を実施した。前回の委員会にていただいたご意見に対する対応の報告、ならびに第1回以降の状況説明、次年度カリキュラム内容などについて意見を伺った。それらの意見をもとにカリキュラムの検討をしている。
	新規／継続	介護福祉科	■2023年度後期に「生きがいと地域社会」という科目が開講される。レクリエーションの専門的な知識と技術を活用して、Wellbeingの実践を通した生きがいの創造を目指す。 ■「TPC」「生涯学習」「満足解思考」「学びのコツ」に関する学習を行っていく。具体的には「解らないままにしない」「確かめる」ことを重点課題に設定し、これらの習慣化を目指して学習活動に組み込んでいく。	■後期授業開講に向けて担当講師と内容について最終調整中である。 ■毎回の授業の中で課題を設定し、個人ワークやグループワークを通して、先ずは学生同士で教え合う機会を設けている。全ての学生が、より安心して自己表出できる学習空間をつくれるよう、さらに授業の在り方を工夫する必要がある。	■2年生、1年生のそれぞれに、4つの学習課題(①共有できる②協働できる③創造できる④満足解思考ができる)」に関する自己評価を行った。2年生は1年次と比して、各課題への自己評価が①＝34.6% ②＝17.5% ③＝21.6% ④＝40.3% という結果となった。 ■外国人留学生の日本語理解度については、個人差が大きいため、個別学習支援の必要性が高まっている。次年度はデジタル教材を導入し、留学生支援を展開する。
	新規／継続	看護科	■昨今の臨床現場においては、看護師の判断力の向上の必要性が示されている。本校の科目においても臨床判断能力の育成をめざし科目設定をした。また、臨地実習では看護師の実践を見た際は「何故そうしたのか」を考えられるような指導に取り組んでいる。現場の新人教育においてもそのような取り組みをしている様であるが、引き続き現場と情報を共有しながら取り組んでいく。 ■コミュニケーション能力の育成は、新型コロナウイルス感染症による臨床現場での実習経験が少ない事で社会人としてのコミュニケーション能力は課題が多いと感じている。今後の経験を積みながら課題に気づき、教育に取り組んでいく。	■実習指導者会議において、効果的な実習指導方法について意見交換をしながら取り組んでいる。また、実習協議会においても効果的な実習指導や学習方法などの検討案を提示しながら取り組んでいる。 ■授業や臨地実習で経験を積みながら、コミュニケーション能力の育成に取り組んでいる。	■校内実習の方法も各担当教員が見直しを行い、臨床判断能力の育成に向けて取り組んでいる。また、臨地実習前の練習においては技術練習だけではなく、どう判断するかなどを考えられるような方法に変更しつつ取り組んでいる。 ■実習指導者会においては、新人看護師の傾向などについて情報を共有しながら基礎教育と現場の連携において必要な事について意見交換しながら取り組み、今後も継続していく。 ■臨地実習では患者をはじめ、指導者、実習グループ、教員とのコミュニケーションが必要であり経験を積みながら能力の育成を図っている。上級生になるとその成果は現れ、周囲の状況に合わせたコミュニケーション力がついている。
	継続	医療秘書科	■人前で臆せずにより自己表現ができるよう、発表形式の授業やキャリアサポートプログラム、学校・学科行事等でスキルの向上を図る。	■1年次の「ホスピタリティ」「病院受付実務Ⅰ」、2年次の「病院受付実務Ⅱ」「キャリアデザイン(面接指導)」「病院事務実習指導」「プレゼンテーション演習」等、複数の教科においてグループディスカッションや発表形式の授業を取り入れている。 ■聞き手としても、多様な考えを受け止める柔軟性を養う指導を日頃から実践している。	■複数の科目においてグループディスカッションや発表形式の授業を取り入れており、学内の教職員に参観を呼びかけをおこなった。 ■表現力を養うとともに、聞き手としても多様な考えを受け止める柔軟性を養う指導を日頃から実践した。
	継続	医療事務科	■人前で臆せずにより自己表現ができるよう、発表形式の授業やキャリアサポートプログラム、学校・学科行事等でスキルの向上を図る。	■1年次の「マナーホスピタリティ」「病院受付実務」「キャリアデザイン(面接指導)」「病院事務実習指導」等、複数の教科においてグループディスカッションや発表形式の授業を取り入れている。 ■聞き手としても、多様な考えを受け止める柔軟性を養う指導を日頃から実践している。	■複数の科目においてグループディスカッションや発表形式の授業を取り入れている。 ■表現力を養うとともに、聞き手としても多様な考えを受け止める柔軟性を養う指導を日頃から実践した。
	継続	医療事務IT科	■授業だけではなく学校生活における様々な場面において、自分の考えを他者に理解してもらえるよう表現することは非常に重要であるので、1年次から段階を経て意見を発表する機会を与え、徐々に習熟するよう指導する。	■クラス内で自身で考え、意見を発信する指導は各教科の担当教員が行っている。	■一部の教科では発表形式を取り入れた授業が行われている。自身の考えをまとめ、他者に理解してもらえるように表現するスキルを身につけるため、様々な機会を用意し指導を行っている。
	継続	診療情報管理科	■授業だけではなく学校生活における様々な場面において、自分の考えを他者に理解してもらえるよう表現することは非常に重要であるので、1年次から段階を経て意見を発表する機会を与え、徐々に習熟するよう指導する。	■クラス内で自身で考え、意見を発信する指導は各教科の担当教員が行っている。	■一部の教科では発表形式を取り入れた授業が行われている。自身の考えをまとめ、他者に理解してもらえるように表現するスキルを身につけるため、様々な機会を用意し指導を行っている。
	継続	くすり・調剤事務科	■授業内において個人やグループで発表をする機会を設けており、クラスメイトや教員からフィードバックを得ることににより内省や気づきの機会となっている。本年度も継続して実施する。	■1・2年生合同授業などを通じてクラス内だけでなく、他学年間でも発表をおこなった。 ■薬店実習でもグループディスカッションや発表をおこない、企業の人事担当者からフィードバックをいただいた。	■2年後期の「キャリアデザインⅣ」、「介護レクリエーション」と「社会人としてのマナー・コミュニケーション」等の授業において、グループディスカッションやプレゼンテーションを実施し、より実践的な知識の習得を図った。
	継続	介護福祉科	■「調べ学習」「考察学習」「創作活動」等を学習活動の中心に据え、それらの成果を伝えるように発表(表現)することを日常的に繰り返す。 ■2年生は上記に加え、2年間の学習成果として「ケーススタディ」発表会をやり切ることを目指す。	■3つの学習方法は講師(兼任教員)も含めて、いずれかの方法が実践できている。発表の形にも、口頭、データ、創作など工夫がされている。9月28日には校外学習(国際福祉機器展参加)を予定している。 ■ケーススタディ発表会に向けて、2年生は「総合演習」の授業の中で頻回にグループワークを通して個人の考えを意見交換している。	■校外学習の報告書作成・発表(1年生)、フィールドワークの報告書作成・発表(2年生)、実習報告書作成・発表(1年生)、看護科との合同授業(1・2年生)でのディスカッションにおいて、意見交換等を実施している。また、言葉と数字だけに頼るのではなく、他のインテリジェンスを使った作業(描画・作図・工作等)を併用することで、より豊かな表現に結びつく感性が育まれるよう授業を展開している。 ■ケーススタディ発表会(2年生)を無事に終えることができた。発表原稿の作成、発表時に使用する資料の作成ともに、学生が主体的に取り組めるよう、担当教員が丁寧にサポートを行なった。
	継続	看護科	■新型コロナウイルス感染症の制限も徐々に解除されている事から、発表の機会も増え育成の機会も増えていくと思われる。また、発表においては発表資料の作成と発表方法などプレゼンテーション力に課題があり引き続き発表準備の仕方の工夫を課題として取り組んでいく。	■授業でのグループワーク学習および発表・臨地実習でのカンファレンス・クラス全体での討議などの機会を通じてスキルアップが図れるように取り組んでいる。	■臨地実習やグループワークの発表などは経験値が高くなることで力をつけている。特に、上学年では内容を深める意見交換ができるようになり成長がみられる。今後も継続して発表の機会を作りながら取り組んでいく。
○高校の現場ではアクティブラーニングが進んでいる。2020年度からそれに慣れた生徒が卒業する。引き続きアクティブラーニングに注力していただきたい。	継続	医療秘書科	■授業を始め校内の教育活動において、学生が周囲との調和を図り、主体的に学び、考え、行動できる要素を取り入れるよう工夫していく。	■講義型、演習型いずれの授業においても、学生同士の協同学習から得られる気づきに期待し、引き続き感染防止に留意しながらグループワークを再開し、参加型授業を促進している。	■講義型、演習型いずれの授業においても、学生同士の協同学習から得られる気づきに期待し、参加型授業を促進している。。対面授業とオンライン授業をそれぞれ有効利用し、より学習効果を高める方策の研究を続けていく。
	継続	医療事務科	■授業を始め校内の教育活動において、学生が周囲との調和を図り、主体的に学び、考え、行動できる要素を取り入れるよう工夫していく。	■講義型、演習型いずれの授業においても、学生同士の協同学習から得られる気づきに期待し、引き続き感染防止に留意しながらグループワークを再開し、参加型授業を促進している。	■講義型、演習型いずれの授業においても、学生同士の協同学習から得られる気づきに期待し、参加型授業を促進している。。対面授業とオンライン授業をそれぞれ有効利用し、より学習効果を高める方策の研究を続けていく。
	継続	医療事務IT科	■一方的に講義を行う従来型の授業形式にとらわれず、対話ができるアクティブラーニング型授業への変換を推進する。オンライン授業および対面授業において、学生の主体的な学びを進められるよう可能な科目から取り入れる。	■一部の教科においては、積極的にアクティブラーニング型授業への変換を行っている。聴くだけの授業からの脱皮を図り、ICT機器を活用してのアクティブラーニング型授業を徐々に取り入れている。	■適応できる教科からアクティブラーニング型授業への転換を行っている。特にアプリを使用した授業では自主的に学ぶ方法が成果を上げているため、アプリを活用する教科を増やす方向で検討している。
	継続	診療情報管理科	■一方的に講義を行う従来型の授業形式にとらわれず、対話ができるアクティブラーニング型授業への変換を推進する。オンライン授業および対面授業において、学生の主体的な学びを進められるよう可能な科目から取り入れる。	■一部の教科においては、積極的にアクティブラーニング型授業への変換を行っている。聴くだけの授業からの脱皮を図り、ICT機器を活用してのアクティブラーニング型授業を徐々に取り入れている。	■適応できる教科からアクティブラーニング型授業への転換を行っている。特にアプリを使用した授業では自主的に学ぶ方法が成果を上げているため、アプリを活用する教科を増やす方向で検討している。
	継続	くすり・調剤事務科	■各授業の内容に合わせて調べ学習や作問の実施、ビデオ教材の使用、グループワーク、ペアワークなど座学だけでなく主体的に学ぶことや周囲と協働しながら学ぶことができる授業を実施している。今後も継続的に学習方法の検討をしていく。	■授業担当教員から授業内容や学生の参加状況などの聞き取りを随時おこない、実施状況の確認や提案をおこなっている。	■授業担当教員から授業内容や学生の参加状況などの聞き取りを随時おこない、実施状況を確認した。 ■各自研修に参加し、教員間での情報共有をおこない、授業に反映させることで、学生の主体的な学びに繋がった。
	継続	介護福祉科	■学生の学習活動を中心に据えた授業設計を、兼任講師も含めて周知し、授業公開を活用してアクティブラーニングの質を高めていく。 ■学科会議において、学習の達成課題とその評価項目と基準、並びに重点課題を説明し、チームワークを重視した学生主体の学習活動(アクティブラーニング)の実践を目指す。	■今年度着任した教員は積極的に授業見学を行っている。ベテランの講師(兼任教員)陣とも、毎回の授業の前後にヒアリングを実施し、授業の様子の把握に努めている。 ■各メンバーの役割を決めてチームとして目標に向けて協力(チームワーク)できる関係性をつくり、教員がどのようにサポートすることで、クラスメンバー全員のチームワークへの適応力が向上するのかが検討していく。	■兼任講師との連携のもと、各科目においてアクティブラーニングを実践することができた。今後はさらにアクティブラーニングの本質を捉え、質の向上に努める。 ■チームワークの標準化については、学生個々によってその適応力に差があり、どのように学習支援を展開していくことで成果が上がるのかを、評価検証する。
	継続	看護科	■可能な授業においてはシミュレーターを使い、学生が自ら活動し学べるような授業に取り組んでいく。また、シミュレーターを使用しない場合もリアルな事例などを使い、状況を想像し考えながら学ぶ授業・演習を取り入れ取り組んでいく。	■自ら考える能力を培うために、可能な授業においてはシミュレーション学習を取り入れている。また、デブリュフィングを通して学生がどのように考えているか確認し進めている。	■講義においても可能な限り演習などを取り入れながら取り組んでいる。今後も各教員は毎年、講義の見直しを図りつつ取り組んでいく。
	継続	校長	■専門教育の場合、タイムリーな情報を入れていくためには、現場の兼任講師からの情報が必要である。今後もこれら講師に現場の生の情報を学生に発信してもらうよう依頼していく。	■年度当初の全教員会、また各学科の学科会において参加兼任講師に趣旨を理解してもらい、よりリアルな現場のトピックスを授業に盛り込んでいただくよう依頼している。	■年度当初の全教員会、また各学科の学科会において参加の兼任講師にリアルな現場のトピックスを授業に盛り込んでいただくよう依頼し、学生アンケートの結果からも満足度につながっている。
	継続	医療秘書科	■対面授業とオンライン授業のそれぞれの良さを生かしたハイブリッド型の授業により、多様化する学生に適應できる授業スタイルを引き続き研究する。 ■新型コロナウイルス感染症禍に学生時代を過ごした経験をプラスに生かせるよう、学生のサポートに努める。	■学生の置かれた環境への配慮、学びやすさ、科目の特性を考慮した次のステップとして、可能な範囲でハイブリッド型授業や補講、補習についても取り組みを検討していく。	■学生の学びやすさと科目の特性、多様化する学生のニーズ等を総合的に考慮し、オンデマンド教材や提示教材の共有化への取り組みを進めている。 ■日常的な感染症対策は習慣化された。今後の社会人生活においても、引き続き健康管理、自己管理の徹底が図れるよう指導を行っている。
	継続	医療事務科	■対面授業とオンライン授業のそれぞれの良さを生かしたハイブリッド型の授業により、多様化する学生に適應できる授業スタイルを引き続き研究する。 ■新型コロナウイルス感染症禍に学生時代を過ごした経験をプラスに生かせるよう、学生のサポートに努める。	■学生の置かれた環境への配慮、学びやすさ、科目の特性を考慮した次のステップとして、可能な範囲でハイブリッド型授業や補講、補習についても取り組みを検討していく。	■学生の学びやすさと科目の特性、多様化する学生のニーズ等を総合的に考慮し、本校の1年制学科の在り方について検討を続ける。
	継続	医療事務IT科	■対面授業とオンライン、オンデマンド型の授業のそれぞれの良さを生かしたハイブリッド型の授業により、多様化する学生に適應できる授業スタイルを引き続き研究する。 ■新型コロナウイルス感染症禍に学生時代を過ごした経験を将来に生かせるよう、学生のサポートに努める。	■どちらの授業スタイルにも対応できるよう準備、指導を行っている。またそれにより指導の効果にばらつきがないかチェック、確認を行っている。 ■自己の健康管理を徹底させ、特に病院実習に臨む際は細心の注意を払うように指導した。実習2週間前からは行動記録も含めて健康管理状況を確認している。	■今年度はすべて対面授業を行った。今後、オンライン、オンデマンド型授業により学習効果があると判断したものについては準備を進めてゆく。 ■自己の健康管理を徹底させ、特に病院実習に臨む際は細心の注意を払うように指導した。今後の実習や社会人生活に向けて、自己の健康管理の徹底が、社会人としての大切なスキルであることを意識させるよう指導を行っている。

			継続	診療情報管理科	■対面授業とオンライン、オンデマンド型の授業のそれぞれの良さを生かしたハイブリッド型の授業により、多様化する学生に適應できる授業スタイルを引き続き研究する。 ■新型コロナウイルス感染症禍に学生時代を過ごした経験を将来に生かせるよう、学生のサポートに努める。	■どちらの授業スタイルにも対応できるよう準備、指導を行っている。またそれにより指導の効果にばらつきがないかチェック、確認を行っている。 ■自己の健康管理を徹底させ、特に病院実習に臨む際は細心の注意を払うように指導した。実習2週間前からは行動記録も含めて健康管理状況を確認している。	■今年度は、学生の理解度を確認しながら、ハイブリット型の授業を行うことができた。引き続き学習効果を確認しながら授業スタイルを検討していく。 ■自己の健康管理を徹底させ、特に病院実習に臨む際は細心の注意を払うように指導した。今後の実習や社会生活に向けて、自己の健康管理の徹底が、社会人としての大切なスキルであることを意識させるよう指導を行っている。
			継続	くすり・調剤事務科	■クラウドを通じて問題の共有をおこない、自主的に学習できる環境を整備している。今後も学習支援ツールの作成に注力していく。 ■展示会や工場見学、企業説明会などのオンライン実施が増加している。本年度も状況や効果を考慮しながら参加方法を検討していく。	■データ化された過去問題や単語帳アプリの配布をおこなった。各自の学習状況に合わせて活用している様子が見受けられた。 ■新型コロナウイルス流行後、初めて学生を引率しJAPANドラッグストアショーに参加した。久々に対面で参加し、業界の最新状況を体験を通じて学ぶことができた。	■次年度より、タブレットを使用した授業を開始するため、関連する研修への参加などを通じて最新の情報を収集している。 ■ペーパーレス化を目指し、資料のデータ化をおこなっている。資料の印刷・配布・管理を効率化することで質の良い授業を目指す。
			継続	介護福祉科	■感染症感染対応ガイドラインを踏まえ、対策の基本的な行為(手洗いうがい・手指消毒)の実施が習慣化するように継続して学生に働きかける。 ■学生主体の活動である「体育祭」と「学園祭」の実施に向けて準備が進められている。多様な学生が在籍しているため、学生たちが協力し助け合ってやり切ることを目指し、則面的に支援を続ける。	■手洗いうがい・手指消毒を継続する。常に介護実習を視野に入れ、演習時日頃の授業時間にも励行している。 ■体育祭は参加者全員が自覚をもって協力しあい、感染者を出すことなく無事に終わることができた。2か月後に控えている学園祭(今回は外部からの参加者がみこまれている)は規模を拡大しての開催となる予定であるため、感染対策に関する手立ての確認を、学生とともに行う。	■手洗いうがい・手指消毒を継続する。常に介護実習を視野に入れ、演習時日頃の授業時間における励行を、次年度も継続実施する。 ■学園祭における感染対策はうまく取り組むことができた。
			継続	看護科	■2023年度は多くの実習施設の制限が解除となり、新型コロナウイルス感染症禍前の教育に取り組める。実際の現場での展開のスピードが早く思考の整理の困難さなど課題も多く見えてきた。	■臨床実習での実践経験は、看護実践能力だけでなく社会人としての対人関係能力など様々な効果を得ながら取り組んでいる。	■新型コロナウイルス感染症が5類に移行し臨床実習はコロナ禍前の実習に戻った。健康管理などは継続しながら臨地での実践力が身につくように育成した。学内では想定できない失敗なども時に生じが、その経験が成長につながっている。今後も成功だけではなく失敗の経験も活かしつつ指導に取り組んでいく。
4	学修成果	2. 資格、免許の取得率	継続	点検委員会	■2023年度より質問項目の改定を行った。検討が必要であれば自己点検・自己評価委員会の議題に挙げる。	■質問項目の改定後初めての授業アンケートを実施した。急を要する修正事項は出ていない。	■後期の授業アンケートにおいても急を要する修正事項は出ていない。
			継続	教務委員会	■前年度に引き続き、兼任講師が行う授業については基本的に参観できるように実施している。また兼任講師についても自由に参観できる旨の案内を行っている。教務委員会は、外部からの意見も積極的に取り入れ、授業の質向上につながるように、積極的な案内、情報の伝達を行う。	■前期科目の授業公開は問題なく終了した。後期科目と通年科目は現在実施中である。前期科目は常勤教員が兼任講師の授業を参観することが多くあった。後期科目についても積極的な参加を促していく。	■授業公開は問題なく終了した。1人当たりの授業参観数は、前年度から増加した。また、兼任教員の授業を参観した回数についても、前年度から大きく増加した。次年度についても授業の質向上につながるように、積極的な案内、情報の伝達を行う。
			継続	校長	■3年間で培ったオンライン教育のノウハウをいかに伝承してくかが課題である。全面的に対面に踏み切ったとはいえ、定期的にオンラインを使用した講義を行い、学生にもオンラインに慣れ親しむことの継続を工夫したい。	■ほぼオンライン教育から対面に舵を切っているが、一部(診療情報管理科)では、オンライン教育を継続している。今後、オンラインスキルの継続のために全学科で意図的なオンライン教育を実施する必要がある。	■全学科で、オンライン教育から対面授業に舵を切っているが、一部(診療情報管理科)では、オンデマンドやオンライン教育を継続し、資格取得のために繰り返しの視聴ができること、わかりやすさ等が好評である。
			継続	校長	■各学科、教員が最大限の努力をし、検定取得に向けて取り組んでいる。引き続き学校としてもこれを評価していく。	■年度当初の各学科資格取得目標に向け取り組んでいる。資格、検定を、①国家資格と②検定と分類し、①は合格率、②は上位級の取得率(取得者数/学生数)とし、学科長会において共有している。	■年度当初の各学科の資格取得目標に向け取り組んでいる。各学科ごとに資格、検定を、①国家資格と②検定に分類し、①は合格率、②は上位級の取得率(取得者数/学生数)とし、校長、副校長との面談、学科運営計画、自己点検評価等、あらゆる機会を通じて共有している。今年度の結果は、総じて好調であった。
			継続	医療秘書科	■学科運営計画に示した卒業時検定合格率の達成に向け、一部科目については進捗別クラス編成を継続する。 ■2年次後期の検定にも挑戦できる科目配置にしているため、検定上位級の受験者数を増やし、伸び残しのない指導を継続する。	■6月の検定試験、7月の診療報酬請求事務能力認定試験は例年通り習熟度別クラスを設定し、想定した成績を収めることができた。 ■医師事務作業補助技能認定試験は、職種の求人数が多いことから、昨年度より早めの受験を推奨した。	■各種検定試験、認定試験の取得率は前年度とほぼ同様の成績を収めることができた。 ■秘書検定において、文部科学大臣賞(団体)受賞という成績を収めた。
			継続	医療事務科	■学科運営計画に示した卒業時検定合格率の達成に向け、デュアル実習開始までに検定が取得できるよう、学生の理解度に応じた指導計画を立てる。	■7月の医科医療事務管理士技能認定試験の受験を推奨した。	■各検定試験の取得率は学科目標には到達できなかったが、医療事務管理士技能認定試験医事コンピュータ技能検定は健闘した。
			継続	医療事務IT科	■学科目標を設定し、その達成のための対策を推進する。特に診療報酬請求事務能力認定試験の取得率の増加を目指す。より上位級の取得を推進する。また業界ニーズの高い医師事務作業補助技能認定試験に注力し、受験率を高め合格者を増やすよう努める。ITパスポートの取得を目指し入学時より段階的に知識を増やしてゆく。	■医師事務作業補助技能認定試験は対策強化したことが実り、設定した目標以上の合格率を達成した。引き続き、すべての試験においてより上位級の取得を推進するよう指導に努める。	■学科目標に到達できなかった試験もあった。それぞれの学生に合った指導方法を検討し、引き続き目標に向かってサポートしてゆく。
			継続	診療情報管理科	■学科目標を設定し、その達成のための対策を推進する。特に診療報酬請求事務能力認定試験の取得率の増加を目指す。より上位級の取得を推進する。また業界ニーズの高い医師事務作業補助技能認定試験に注力し、受験率を高め合格者を増やすよう努める。ITパスポートの取得を目指し入学時より段階的に知識を増やしてゆく。	■診療報酬請求事務能力認定試験の取得率の増加を目指し、継続的に指導を強化している。引き続き、すべての試験においてより上位級の取得を推進するよう指導に努める。	■各検定試験、認定試験の取得率は前年度とほぼ同様の優秀な成績を収めることができた。卒業後の資格試験の受験についても引き続きサポートしてゆく。
			継続	くすり・調剤事務科	■多くの学生が学科が目標としている資格試験やさらに上位級に挑戦するように動機づけをおこなう。 ■学生が自身の成長や苦手な面を認識できるように問題演習の点数を継続的に計測し、その結果に基づいたアドバイスを実施する。 ■業界関係者から意見を頂戴し、学習意欲が高まるようカリキュラムを見直す。	■1年生の資格試験における上位級への挑戦意欲が高い。積極的に学習に取り組んでいる。 ■夏季休暇中に登録販売者試験の補講を実施した。 ■関連企業と継続的にカリキュラムについて打ち合わせをおこなっている。	■指導を行ってきた中で初めて、サービス接遇実務検定1級を受験する者が出た。上位級に挑戦する積極性が見られる。 ■夏季休暇中に登録販売者試験補講を実施したが、成果は見られなかった。次年度カリキュラム作成の検討課題としたい。
			継続	介護福祉科	■国家試験100%合格をめざす。その他、任意の資格についても、学生自身が将来を見据えて積極的に挑戦できるように支援する。	■上級救命救急講習(2年生)、レクリエーション介護士2級、ともに受講者全員取得した。11月には認知症サポーター講習受講が控えている(1年生)。11月より国試対策が始まる(2年生)。	■任意の資格について、希望者全員が取得できた。国試については、昨年度の結果を下回ったため、国試対策を改善する。
			継続	看護科	■看護師国家試験の本格的な試験対策は11月の実習終了後であり取り組み開始が遅い傾向にある。現状を踏まえ、実習中や自宅でも自主的に取り組めるような教材を導入し合格への一助として取り組んでいく。また、低学年から学習方法の支援として新たに「学習支援担当」の教員を置き取りんでいく。	■例年の国家試験対策に加え、学習アプリを導入し国家試験対策を強化して取り組んでいる。また領域ごとの実習終了後は、該当領域の知識の定着を確認している。 また、低学年からの学習支援は苦手科目に絞って取り組んでいる。	■合格率100%を達成し、成果を得た。要因として学習アプリの効果の検証はできていないが問題を身近に解ける事はよかったと振り返る。また、学生の実力を模擬試験で確認しているが、次年度は、実力の自覚を持てるような受験方法に変更する。下学年からの学習対策は、一時期取り組めた。次年度は、担任の業務に変更し取り組んでいく。
	3. 卒業生の社会的評価		継続	CSC	■年度末にかけて、実習先や内定先への訪問に際し、医療機関等の評価の確認を行っていく。 ■Gメールを活用したより効率的な調査方法の検討を進める。	■今年度、実習はかなりの病院で行っており、実習での訪問を通じて聞き取りが出来る。年度末にかけても就職実績のある病院への訪問を通じ聞き取りを行っている。 ■Gメールを活用したより効率的な調査方法の検討を年度末にかけて進める。	■実習での訪問を通じて聞き取りが出来ている。年度末にかけても就職実績のある病院への訪問を通じ聞き取りを行っていく。 ■Gメールを活用したより効率的な調査方法の検討を進める。
			継続	CSC	■ウェブ面接については、授業では注意点や実施にあたってのポイント、また実際にウェブ面接の体験を通して指導していく他、個別にも希望者に対し実際にウェブの模擬面接を行い指導していく。	■ウェブ面接について、授業においてプログラムを設け、注意点や実施にあたってのポイントを指導した。また希望者に対し、個別でウェブの模擬面接も行った。	■ウェブ面接について、授業においてプログラムを設け、注意点や実施にあたってのポイントを指導した。また希望者に対し、個別でウェブの模擬面接も行った。
			新規／継続	校長	■オンライン授業の導入により、退学率に減少傾向が見られたが、対面授業に復したことに再び上昇に転じた。カウンセラー、保健室と協議し、これらのへの対応について全学的な学びを実施していく。	■昨年同様の看護師配置をして学生の対応にあたった。 ■カウンセラーによる研修会を開催した。「セルフケア」と題し、①学生相談コーナーの紹介と連携、②教職員のセルフケア、について学び、メンタル面を理由とする退学学生の防止への対応策への示唆を得た。	■全般的に健康上、特にメンタル面での不調を訴える学生がみられ、そのため保健室常駐看護師を昨年同様の配置として学生対応にあたった。 ■さまざまな取り組みを行ったが、退学者が増加した。退学者は1年生が多数であった。
			新規／継続	学生委員会	■クラス担任、教員、保健室、カウンセラー等、これまで培ってきた協力体制を一層強化し、退学防止に取り組んでいく。 ■サークル活動を活性化させたり、学校行事(体育祭や学園祭)に積極的に関わらせたりして、学生の居場所づくりを行う。	■6月にカウンセラーによるメンタルヘルスケア講座を実施した。また、調査・分析・他校事例調査を継続し、協力体制の強化に取り組んでいる。 ■新規サークルの募集活動を行い、「サークル勧誘活動イベント」を実施して部員増加に繋げた。また、体育祭を7月に実施し、学園祭を11月に実施予定である。	■学生相談コーナーの利用促進のための取り組みとして、後期から開室時間を一部昼休みに変更し、サポートを強化した。 ■6月にカウンセラーによるメンタルヘルスケア講座を実施した。また、調査・分析・他校事例調査をし、学内に共有した。 ■新規サークルの募集活動を行い、「サークル勧誘活動イベント」を実施して部員増加に繋げた。また、学校行事として体育祭を7月に、学園祭を11月に実施した。
	6. 卒業生・社会人		継続	校長	■次年度は医療・介護の診療報酬の全面改定もあり、また医療的ケアの必要性も高まっていることから、校友会と協議し、必要な卒業生支援を行っていく。	■卒業生支援のため、次年度に予定されているトリプル改訂に対応すべく、2月の卒業生支援講座開講に向けて準備を進めている。	■2月に卒業生50名超、多数の教職員の参加を得て「2024年度診療報酬・介護報酬改定のポイント」と題して卒業生支援講座を実施し、好評を博した。 また講演後は卒業生との懇親会を開催し、交流を深め、現場からの情報収集に努めた。 今後も卒業生の支援ニーズの把握に努め、多数の参加者を得る企画を提供していくことが課題である。
			継続	CSC	■卒業生支援講座の企画についても卒業生と接する機会を通じニーズの把握に努めることにより貢献していきたい。	■卒業生支援講座の企画について卒業生と接する機会を通じニーズの把握に努めるよう心掛けている。	■卒業生支援講座の企画について卒業生と接する機会を通じニーズの把握に努めるよう心掛けている。

			継続	校友会事務局	■引き続き卒業生支援講座開催時に参加者へのアンケートを実施するほか、卒業生へのヒアリングからニーズを探り、企画材料とする。	■2月に実施する卒業生支援講座において、Webを活用し参加者にアンケートを実施してニーズの把握に努める。	■2月に実施した医事系卒業生を対象にした講座においてアンケートを取り、ニーズの把握に努めた。 ■アンケートの回答だけでなく、社会のニーズも視野に入れ、卒業生が多く集まる企画を立案していく必要がある。
		○Gメール等を活用した、(卒業生の状況が把握できるような)ネットワーク作りを進めてほしい。また、ネットワーク作りだけでなく、卒業生に対するフォローの強化も進めてほしい。	継続	CSC	■既卒者の就(転)職希望者にも積極的に対応している。2023年度は、より積極的に既卒者へのアプローチを行っていきたい。	■既卒者の就(転)職希望者に積極的に対応している。	■既卒者の就(転)職希望者に今年度も積極的に対応している。
7 学生の募集と受入れ	1. 学生募集活動	○高校における専門学校の理解や認識が必ずしも進んでいない。学科ごとに、仕事内容、雇用形態、卒業生の様子、企業の評価などの情報提供をもっと工夫してほしい。	継続	広報室	■首都圏の重点校を中心に高校訪問を行い、本校の特徴を理解してもらったうえで信頼関係の構築をはかっていく。また、昨年度の募集活動を検証しつつ募集活動計画を作成するなかで、アピールすべき情報を精査し本校の強みである就職の強さと業界とのつながりの厚さを訴求していくよう心掛ける。	■1都5県の重点校を中心にリストアップし、全事務局体制で高校訪問を実施した。学生や卒業生の情報提供などを行いリレーションを深めた。また、医療・福祉分野の安定感のほか、求人数の多さ、大規模病院への正職員就職に強い本校の特色を訴求している。	■中間点検同様、高校訪問時には就職の強さ、確かな教育力、特待生制度のある入試など本校の特徴や医療・福祉分野の安定性の説明のほか、卒業生状況の情報提供を行った。
		○新型コロナウイルス感染症禍前に比べるとオンライン授業のスキルが向上している。募集活動においても強みになると思われる。上手くアピールに繋げてほしい。	継続	広報室	■本校のオンライン授業の質の高さや、きめ細かいサポートをアピールする。	■概ね対面授業を中心に授業運営ができているが、新型コロナウイルス感染症の拡大レベル等により一部授業ではオンラインによるサポートができることを伝えている。	■中間点検同様、各学科の授業運営方針に基づき、本校の高品質な授業をオンラインで受講できることをアピールした。
9 法令等の遵守	2. 個人情報保護	○学生には、特にSNSについて、個人情報保護、プライバシー保護、守秘義務等の観点からの注意喚起が引き続き求められる。	継続	事務局長	■これまでと同様に、オリエンテーションやポータルサイト、掲示を通して注意喚起を継続していく。	■オリエンテーション、ポータルサイト、行政が提供している掲示物等を利用して個人情報保護に関する注意喚起を継続した。	■オリエンテーション、ポータルサイト、行政が提供している掲示物等を利用して個人情報保護に関する注意喚起を継続し、問題なく経過した。 ■次年度以降も引き続き同様の啓蒙活動を継続していく。
			継続	学生委員会	■個人情報の取扱いについて本校のポータルサイトに掲載するだけでなく、年間を通して随時注意喚起をする。	■4月初めのオリエンテーションの中だけでなく、ポータルサイト掲載、メール送信で注意喚起を行った。	■個人情報の取り扱いについての内容をポータルサイトに掲載し、いつでもどこでも見られる状態にしている。委員会として注意喚起を引き続き行っていく。
10 社会貢献・地域貢献	2. ボランティア活動	○ボランティア活動は人材育成の視点から有意義なものであるため、さらに仕掛けを工夫して奨励してほしい。	継続	学生委員会	■アフターコロナとなり、各所でのボランティア活動が戻りつつあると思われるため、多くの情報を収集して案内し、ボランティア活動することで学生時代に貴重な社会経験を積めることを理解させて、ボランティア活動の参加者を増やす。	■社会福祉法人豊島区民社会福祉協議会を訪問し、ボランティア活動参加による地域連携や本校の教育や立地を活かした活動の方策について情報収集を行った。また、ボランティア活動の中核を担っている豊島区立高田介護予防センターを訪問し、地域との連携推進、ニーズの把握、実績づくりの検討を行った。	■地域との交流やニーズを把握するために、地域イベントに参加し、自治会関係者と交流を深めた。また、地域連携に向けて、本学に適用可能な取り組みについて検討を行った。
		○学校で単位認定されることもしっかり告知して活動を支援してほしい。	新規	校長	■新型コロナウイルス感染症禍で肉体的・精神的に活動意欲が低減してしまった。アフターコロナに向け、学生の積極性を涵養し、活動につなげていきたい。	■としまボランティアセンターを訪問し、地域活動の状況をヒアリングした。その後高田地域のボランティア活動の拠点となっている法人を訪問し、地域ニーズや現在の活動状況に関してレクチャーを受けた。10月には防災時の相互応援協定に関する意見交換会に参加予定である。引き続き地域ニーズの把握に努め、次年度以降の地域連携計画策定を進めたい。	■これまであまり手を付けてこなかった地域活動を視野に入れ、10月に地域の災害時相互協力に関する会議に参加したほか、町内会の活動に教職員が積極的に参加した結果、学生へのボランティア参加依頼がなされた。学内においてはボランティアサークル立ち上げに向けたメンバー募集が行われたが登録者はいなかった。 次年度、年度当初より学生に対してボランティア活動への積極的な参加を呼びかけるとともに、教職員も地域の一員として自覚を持ち協力していく。